



# 恕の心



令和4年2月16日 校長 廣瀬 真樹

## 私のお気に入り



学校って、よく見るといろいろな発見があるものです。丸内中学校には、いたるところに絵が飾ってあります。中でもひととき存在感があり目を引く作品がこれです。美術室と音楽室の間に飾ってあるものですが、個人的に私がとても気に入っているものです。

この作品は石川県生まれの洋画家「西房浩二」さんのものです。奥能登のお寺に長男として生まれた西房さんですが、彼が画家になったのは、中1の夏休みに、見たこともない油絵を描いてみたいと思ったことがきっかけです。夏休みの個人研究に油絵を描こうと思い、隣町までバスに乗って道具を買いに行き、見たことのない油絵を描くために教則本を買ってきて、それを見ながら描いたということです。しかし、その後の道のりは、決して順調だったわけではなく、日展(\*)にも六年続けて落選するなど、多くの失敗を経て今があるそうです。

本校の元校長先生であった久保孝嗣先生と親交が深かったことから、本校に作品を飾ることができました。久保先生は「人の心を豊かに育てるためには芸術は必要」とよくお話しされていました。ひとつひとつの作品から、多くを学び、感じ取ることができると思います。ちなみに西房さんの作品は本校にあと2点あります。ぜひ探してみてください。

日展\* 日本最大の総合美術展覧会。110年以上の歴史があるもので、毎年1万人以上が応募する公募美術展。

## 失敗と書いて「せいちょう」と読む



故・野村克也氏の命日は、2020年2月11日でした。ニュースでも多く取り上げられていました。選手としては戦後初の3冠王になった野村さんですが、監督としても多くの功績を残しています。特に他球団で挫折した選手を見事に立ち直らせ、チームの中心選手に育て上げる手腕は「野村再生工場」と呼ばれ、今でも語り継がれています。

彼の残した名言のなかで「**失敗と書いてせいちょうと読む**」というのがあります。失敗は誰もするもの。人間にとって大切なのは、失敗した後の考え方、どう行動するかである……これは「再生工場」にも通じる名言です。

人は生きている中で、一回も失敗がない、挫折したことがないという人はいないと思います。さまざまな出来事や人間関係などで大きく後悔したり、落ち込むようなことは人生の中でたくさん、そして必ず、誰にでもあります。ただ、それを次へのエネルギーにできる人、頑張るきっかけにできる人は素敵な生き方ができるのだと思います。失敗が自分に何を教えようとしているのか、それを考え、それを他人のせいとせず、努力を重ねていける人が**せいちょう**できるのだと思います。勇気の出る言葉です。